





# 環境 マネジメント

ステークホルダーとのかかわり	国内外空港との連携	環境認証制度の活用	環境アセスメント
P36-40  サステナブルNRT推進協議会・空港と周辺市町の持続的発展・社外での講義・環境情報の公開	P41  ACI活動	P41  空港カーボン認証レベル3の取得	P42-43  成田空港の更なる機能強化における環境影響評価について

## 環境マネジメント体制



当社では、「経営ビジョン」に基づき「環境基本方針」を定めるとともに、空港全体の具体的な取り組み目標として『サステナブルNRT2050』を定めています(P6~7参照)。

推進体制としては、役員をメンバーとする「サステナブルNRT2050推進委員会※1」、その下に部長をメンバーとする「サステナブルNRT2050推進会議※2」、また各部室に環境推進役としての「エコ・リーダー※3」を置いています。さらに、『サステナブルNRT2050』の達成に向けて社内体制を強化するため、2021年7月に「サステナビリティ推進室」を設置しました。

このほか、成田国際空港の環境マネジメントシステムや環境施策などの重要案件を調査・審議するため、社長の諮問機関として学識経験者からなる地域環境委員会を設置しています。

空港全体の環境推進体制としては、「サステナブルNRT推進協議会」が中心となって活動を推進しています。

これらの推進体制を強化し、またステークホルダーとの連携や相互対話を積極的に実施することが、『サステナブルNRT2050』の目標を達成するうえで重要であると考え、環境マネジメントを進めています。

### ※1 サステナブルNRT2050推進委員会

サステナビリティ担当取締役を委員長とし、役員を構成メンバーとした組織。

### ※2 サステナブルNRT2050推進会議

サステナブルNRT2050推進員(各部室長)を構成メンバーとした、「サステナブルNRT2050推進委員会」の下部組織。

### ※3 エコ・リーダー

各部室における環境への取り組みを実践するとともに、内外に取り組みを浸透・拡大させる先導役。

## ステークホルダーとのかかわり



### 空港でのコミュニケーション

空港の運営は、約700社の企業や関係官庁などにより成り立っています。空港からの環境負荷を低減するためには、それらの空港関連事業者などとの連携と情報共有が不可欠です。

当社は、空港関連事業者などと、空港全体で環境への

取り組みを推進していくための組織として、2005年に「成田国際空港エコ・エアポート推進協議会」を発足させ、環境保全活動を推進しています。そして2022年6月、名称を「サステナブルNRT推進協議会」へと変更しました。

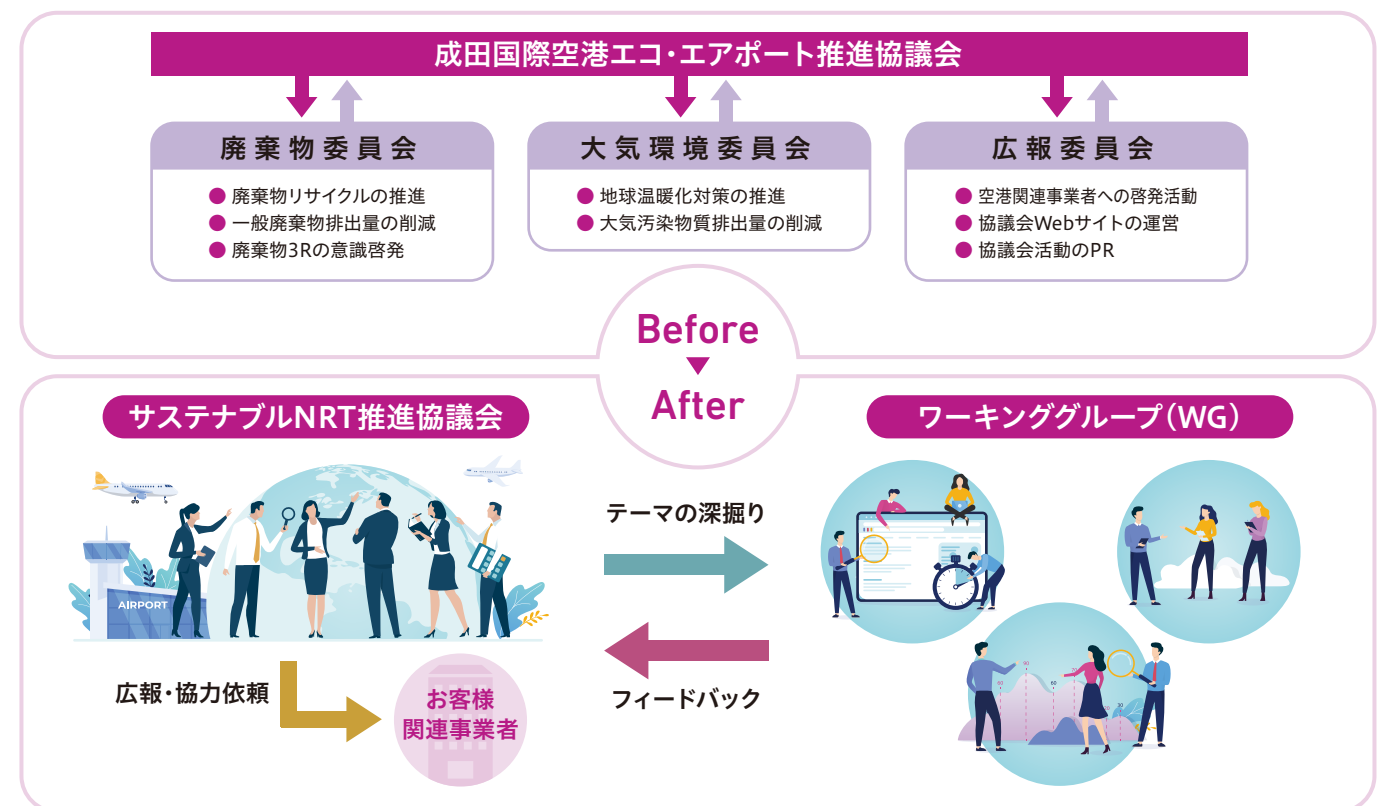
## サステナブルNRT推進協議会

当協議会は、航空会社、貨物事業者が加盟する各業種団体をはじめとする、23社・7団体・9官庁が参加しています。脱炭素化をはじめとした持続可能な社会の実現に向け、空港関連事業者が一体となって『サステナブルNRT2050』の達成に向けた取り組みを推進しています。

概ね年に2回協議会を開催し、進捗報告や情報共有などを行っています。2022年6月には名称の変更とともに体制の見直しも行いました。これまで協議会の下部組織として置いていた3つの委員会(廃棄物・大気環境・広報委員会)を廃止し、各取り組みごとにワーキンググループ(WG)を設置することとしました。WG第1弾として「車両のカーボンニュートラル化WG」を設置し、2022年7月に第1回、9月に第2回が開催されました。今後は、車種やエリアごとに分科会を開催予定であり、ステークホルダーの皆様とより活発な議論や積極的な取り組みを行ってまいります。



第1回サステナブルNRT推進協議会(対面・オンラインのハイブリッド開催)





## 協議会の内容

- WGでの取り組みの共有と意見交換
- 「サステナブルNRT2050」に関する取り組みの進捗と課題の共有
- 各会員の取り組み発表

### ◆「サステナブルNRT推進協議会」会員(2022年9月1日現在)

成田国際空港航空会社運営協議会	(株)NAAファシリティーズ	成田地区保稅会
日本航空(株)	(株)グリーンポート・エージェンシー	国際空港上屋(株)
全日本空輸(株)	(株)JALエアテック	成田国際空港テナント連絡協議会
日本貨物航空(株)	成田地区ホテル業協会	国土交通省東京航空局成田空港事務所
(株)JALグランドサービス	東日本旅客鉄道(株)	国土交通省気象庁成田航空地方气象台
ANA成田エアポートサービス(株)	京成電鉄(株)	財務省東京税関成田税関支署
(株)エージーピー	東京空港交通(株)	財務省東京税関成田航空貨物出張所
日本空港サービス(株)	京成バス(株)	法務省東京出入国在留管理局成田空港支局
(株)ティエフケー	成田国際空港タクシー運営委員会	厚生労働省成田空港検疫所
(株)成田空港美整社	東京ガス(株)	農林水産省横浜植物防疫所成田支所
三栄メンテナンス(株)	東京電力エナジーパートナー(株)	農林水産省動物検疫所成田支所
(株)ナリコー	日本郵便(株)成田郵便局	千葉県成田国際空港警察署
成田空港内警備会社連絡協議会	成田航空貨物運送協会	成田国際空港(株)

## ワーキンググループ(WG)

- テーマに関連した国内外の情報共有
- テーマ毎の意見交換・議論、取り組み推進

## 周辺地域とのコミュニケーション

環境に配慮し、地域と共生する空港を目指すことを経営ビジョンに掲げ、継続的に周辺地域との環境コミュニケーションを図っています。周辺市町の担当者と密に連携

を図っているほか、成田国際空港騒音対策委員会や市町の議会、住民説明会、地域行事などを通しての意見交換を実施しています。

## 空港と周辺市町の持続的発展

### 環境対策についての中学校講演会

成田国際空港の役割と環境への取り組みについて関心や理解を深めてもらうことを目的に、(公財)成田国際空港周辺地域共生財団主催のもと、周辺市町の中学校で講演会を実施しています。空港で実施しているリサイクルや脱炭素化に向けた取り組み、航空機騒音対策などについて紹介しています。



中学校講演会

### キャリア教育への協力(航空講話)

空港南側圏(山武市、多古町、芝山町、横芝光町)が行う地方創生事業の一環として、航空会社と協働で、小中学生への航空講話を行っています。成田国際空港の概要や役割、空港で働く人たちの業務内容ややりがいなどを知ってもらうことで、働くことや空港の職業について関心や理解を深めています。新型コロナウイルスの影響もあり、2021年度は主にオンラインでの実施となりましたが、2022年度は一部を除き出張授業を予定しています。加えて、低学年向け事業として、折り紙ヒコーキ教室なども行う予定です。



航空科学博物館での航空講話

## 地域相談センター

航空機騒音などのご相談や空港の運営に関するご要望・ご意見をうかがい、地域の方々との相互対話を推進するため、空港周辺の5カ所に北地域相談センター(千葉県成田市)、南地域相談センター(千葉県山武郡芝山町)、東地域相談センター(千葉県香取郡多古町)、山武地域相談センター(千葉県山武郡横芝光町)、茨城地域相談センター(茨

城県稲敷郡河内町)を設置しています。なお、2022年4月には茨城地域相談センター、同年6月には南地域相談センターが、地域の皆様に気軽にお越しいただける場所へと移転しました(P56参照)。

いただいたご意見については、関係部署に共有し、環境対策に反映しています。

## COLUMN

### 南地域相談センターが「空の湯」へ移転

南地域相談センターは、当社で初めての地域相談センターとして芝山町千代田公民館に事務室を開設。以降、地域住民の方を中心に航空機騒音対策をはじめとする成田国際空港の相談をお受けしていました。この度、同事務室を芝山町へお返しするに伴い、2022年6月、成田空港温泉「空の湯」(運営:三栄メンテナンス株式会社)内へ移転。周辺地域の皆様に成田国際空港と地域相談センターをより身近に感じてもらえるよう、

「そらぼーと-成田空港コミュニティラウンジ-」という愛称をつけました。

また、南地域相談センター内では、伐採木からつくられた机やパーテーションを使用するなど環境にも配慮しています。



## STAFF VOICE

### “地域の方々との交流で信頼関係を築きたい”



成田国際空港株式会社 共生・用地部門 地域共生部 相談センター 南地域相談センター 佐藤 仁志

南地域相談センター事務室の成田空港温泉「空の湯」への移転は、成田国際空港の運営と機能強化に関する情報発信と、地域の皆様との交流の促進が目的です。アクセスしやすい場所へ移転したことで、地域の方々も気軽に訪れてくださるようになり、接する機会も増えました。空港と地域との共生の実現に向けて大切なのは、地域の実情に配慮してきめ細やかな対応を心がけ、信頼関係を築くことです。その取り組みにおいて、当センターの存在はますます重要になると考えています。今後も、周辺地域との共生・共栄を意識していきたいと思っています。



## 社会とのコミュニケーション

成田国際空港の環境への取り組みについて、空港周辺地域の方々はもちろん、より広く一般の方々にも知っていただけるよう努めています。大学での講義やホームページ

での情報公開など、さまざまな機会を活用して、成田国際空港における環境施策を紹介しています。

## 社外での講義

将来を担う学生たちに成田国際空港の環境への取り組みを伝えるため、桜美林大学、東京電機大学にて「空港経営とサステナビリティ」をテーマに講義を行いました。また、成田国際空港のポテンシャルなどを活用して千葉県の経済活性化を目指す『成田空港活用協議会』にて、「成田空港における脱炭素化に向けた取り組み」について講演しました。「サステナブルNRT2050」をはじめ、成田国際空港のこれまでの環境への取り組みや今後の見通しなどについて説明し、より多くの方々への周知に努めました。



成田空港活用協議会の様子(2022年5月23日)



## 環境情報の公開

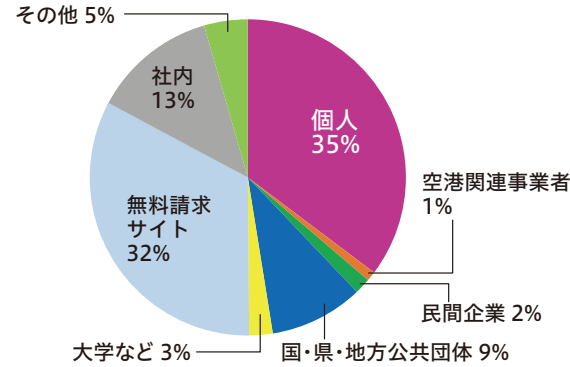
当社は、成田国際空港における環境対策の実施状況やその結果について、空港内外の皆様にご理解いただけるよう、広く情報を公開するとともに、積極的に取り組みを発信しています。

環境報告書については、NAAホームページへの掲載はもちろん、空港関連事業者や周辺住民などに配布するほか、全国の図書館や大学などに送付するなど、読者層の拡大に努めてきました。さらに、環境報告書をより多くの方に読んでいただけるよう、環境報告書などの無料請求サイト（エコほっとライン）に登録し、電子版での閲覧や冊子請求をできるようにしています。

また、空港利用者にも成田国際空港の取り組みを知って

いただけるよう、環境報告書のダイジェスト版を作成し、旅客ターミナルビルなどで配布しています。

### ■ 環境報告書2021配布先内訳



### 環境報告書

環境対策実施状況や環境への取り組みについて、毎年タイムリーなテーマで特集を組むなど、よりわかりやすく紹介しています。2022年度は日本語版を3,500部発行しました。また、環境報告書ダイジェスト版は、日本語版約4,500部を旅客ターミナルビルの案内カウンターなどで配布しています。※英語版はPDFのみ。2022年2月頃にNAAホームページ（<https://www.naa.jp/en/environment/environment.html>）にて公開予定。



### Webなど

NAAホームページでは、環境報告書を閲覧できるほか、さまざまな環境への取り組み状況をご覧いただけます。また、環境情報公開サイト「成田空港環境こみゆにてい」では、航跡情報、航空機騒音、大気質、水質の測定結果を公表しています。



NAAホームページ  
<https://www.naa.jp/jp/>



成田空港環境こみゆにてい  
<http://airport-community.naa.jp/>

### エコ・エアポートコーナー

航空科学博物館内の「エコ・エアポートコーナー」（P56参照）では、成田国際空港周辺環境マップやエコ・リサイクルショップなど「見る」「聞く」「触れる」体験型装置を通して、子どもたちに親しみやすい形で環境への取り組みを紹介しています。



航空科学博物館



エコ・エアポートコーナー

### 空港情報コーナー

周辺地域の方が気軽に空港に関する情報や環境測定結果、航跡図などを閲覧できるよう、成田空港 空と大地の歴史館内に空港情報コーナー（P56参照）を設置しています。

### 地域相談センター

周辺地域の方からのご相談などに対応するため、空港周辺5カ所に地域相談センターを設置しています。詳しくは、P38、56をご覧ください。

### NAA情報コーナー

NAA本社ビル1階に開設している情報コーナー（P56参照）では、「成田空港環境こみゆにてい」のほか、空港に関するパネルや当社の出版物を閲覧できます。



NAA情報コーナー

## 国内外空港との連携



当社は、国内外の空港が連携して共通の課題に取り組むことで、世界的規模での空港環境問題の解決につながると考えています。国内では、主要国際空港と積極的に交流を行い、連携を強化するほか、海外空港とは、ACI※地域

環境委員会などを通じた意見・情報交換を行っています。

※ACI(Airports Council International:国際空港評議会) 空港や空港ビルの管理者または所有者を会員とし、会員の相互協力による国際航空輸送の安全・快適・効率化と、環境保全の推進を目的とした国際機関

### ACI活動

当社は、世界185カ国・地域、1950空港を管理する717団体（2022年9月）が組織するACIに加盟しており、専門委員会の一つである環境常設委員会へも委員を派遣しています。2022年9月には第44回環境常設委員会がアメリカのミネアポリスで開催され、気候変動対応やその他環境問題について意見交換が行われました。

また、東アジアから中東地域、オセアニア地域のACI加盟空港管理者がメンバーとなるアジア太平洋地域の環境委員会にも所属しています。近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催となっていますが、世界各地で開催される委員会へ出席し、空港カーボン認証プログラムや加盟空港における環境負荷低減策などについて情報共有、意見交換を行っています。



第44回環境常設委員会（アメリカ・ミネアポリス）

## 環境認証制度の活用



温室効果ガス排出量の削減に向けた国際的枠組みであるパリ協定が2016年11月に発効し、国際的に地球温暖化に対する取り組みが進む中、空港管理者などを会員とする国際機関である国際空港評議会（ACI: Airports Council International）は、空港カーボン認証（Airport Carbon

Accreditation）プログラムを活用し、空港管理者全体でCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組むことを表明しています。成田国際空港は2018年より、空港カーボン認証プログラムに参加しています。

### 空港カーボン認証レベル3の取得

空港カーボン認証※プログラムに参加し、NAAグループ会社の排出するCO<sub>2</sub>が計画的に削減されていることを証明する段階であるレベル2を2018年1月



空港カーボン認証レベル3証明書

に取得しました。さらに同年11月には、日本の空港としては初めてレベル3を取得しました。

これは、航空機や車両、お客様の空港へのアクセス、従業員の通勤など、空港全体の活動により排出されるCO<sub>2</sub>を把

握していること、また、主要なステークホルダーとともにCO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた計画を策定するなどの取り組みが評価されたものです。

今後とも空港カーボン認証プログラムを活用しながら、主要なステークホルダーとの協力体制を一層強化し、さらなるCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでまいります。

### ※空港カーボン認証

空港のカーボンニュートラルを目的とし、空港から排出されるCO<sub>2</sub>の管理や削減の状況をACIが6段階で評価する認証プログラム。